

令和3年度 第2回
奈良市社会教育委員会議
会議録

令和 4年 2月 16 日会議

令和3年度 第2回奈良市社会教育委員会議 会議録			
開催日時	令和4年 2月16日(水) 午前10時00分から11時10分まで		
開催場所	はぐくみセンター 8階 多目的講座室		
出席者	委員	井上委員、岡田(和)委員、岡田(龍)委員、奥田委員、小倉委員、加藤委員、川田委員、川野委員、艸香委員、中村委員 【計10人出席】(北出委員、小北委員 欠席)	
	事務局	教育長、教育部次長、地域教育課長、中央図書館長、地域教育課課長補佐、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人なし)	担当課	教育部 地域教育課
議題 又は案件	1. 令和3年度 大会等参加報告 2. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に関する活動報告 3. その他		
決定又は 取り纏め事項	・事業評価・点検に関する活動報告(令和2年度事業に係る事業評価シートに対する委員意見等)のとりまとめた内容について、各課にフィードバックをすることについて承認された。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
<p>1. 令和3年度 全国社会教育全国大会(石川大会)の参加報告(資料1)</p> <p>・資料のとおり</p> <p>2. 令和3年度 近畿地区社会教育研究大会(大阪大会)の参加報告【資料2】</p> <p>〈報告〉大会の準備にあたり、初期は通常の対面による大会の開催を予定していたが、最終的にオンデマンドでの開催となった。オンデマンドの良い点は、対面での開催では1つの分科会しか出席できないが、全ての分科会を視聴することができるか、スクリーンに投影してみんなで共有しながら視聴できたという点があげられた。また、初めに対面での開催を予定していたので、参加費がかかることもあり、配信されているにも関わらず、参加人数の制約があったこと、基調講演は1回限りの配信だったので残念だったという意見が聞かれた。</p> <p>〈委員からの意見・質問〉</p> <p>・奈良市の社会教育委員として、何をしたいと思われているのか、期待や希望等があれば各委員にお聞きしたい。⇒奈良県社会教育研究大会に参加された委員にご意見をいただいた。</p> <p>・社会教育委員に委嘱された際、学校教育には、「めざす子ども像」があり、皆で共有されているが、社会教育はそういった目標がない。と感じたことがあった。しかし、今回</p>			

の基調講演の中で、なぜそういうことをしないのかということで、戦前・戦時中の社会教育が軍国主義的な要素を持ったという反省があったという話があった。そのことを聞いた時、誰かに目標を作ってもらうのではなく、何をするかを皆で考えていくということが社会教育委員の果たす役割なのではという気づきになった。

・オンデマンドで開催される大会は、自分の都合に併せ、何度でも視聴することができたのがメリットだと感じた。

・十津川村の分科会を聴講して、行動する社会教育委員、攻めの社会教育という言葉が出ていた。奈良市の状況に応じて吟味をしながら、社会教育委員が何をすべきか、何をしないといけないのかを委員の皆さんと話し合い、一歩踏み込んで、地域を巻き込みながら、実際に行動をしていくことが必要なのではと思った。

・社会教育委員としての目標は決まっているわけでは無く、何を目指すのか、どういう社会にしていくのか、語り合いながら、合意を作っていくことが大事なのではと改めて思った。また、社会教育委員は独任制であり、個々が自立して活動しながらも、市の社会教育委員として、その時の市にとって、何ができるのか、何がプラスになるのかを考えていく必要があるのではと思った。

3. 奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に関する活動報告

今年度も川野委員をリーダーとして、2回のグループ活動を実施した。中央図書館の視察と、令和2年度の評価・点検のとりまとめについて報告をいただいた。

〈委員から評価・点検のとりまとめの報告〉

・各課からの成果について、社会教育委員からコメントをいただいたものを確認しながら進めた。総意を出すというよりも、個々の委員がそれぞれの立場として見えているものを列挙した形になっている。

・ウィズ・コロナの中で制限もある中、各課で、できることを模索しながら進めてこられたことが感じられた。その中で社会教育として大事な部分、集う場所、人の集まれる場所として公民館が重要な拠点となっていることや、子育てスポットの目的について再認識され、コロナになって改めて社会教育の意義が見えてきた。

・個々の委員が各課からの成果を読んで、分析し、コメントを記入するプロセスを通じ、新たな事業を知ったり、調べたりすることで各事業への理解を深めるきっかけになっていると感じている。また社会教育施設の視察を重ねて、現場での取組や思いを聞くことで、社会教育委員として奈良市の社会教育を伝えていく立場として、理解が深まることはプラスになっていると思っている。また、視察を通じて出てきた新たな疑問等についても、素早く回答をいただけたことで、より理解が深まったことに感謝している。

・市民目線でのコメント（広報が十分でないという点や違いがわかりにくいといったようなこと）については、今後の取組手法にも活かしていただける内容であると思う。

・フィードバックはどのような方法でされるのか。市の他の計画においても、評価はするが、その後どのような対応をされたかがわからない場合が多い。

⇒〈事務局〉社会教育委員からの意見を取りまとめたもの【資料3】を各課に返し、で

きていない部分については改善してもらうよう通知する。また、1回目の社会教育委員会議の定例会で、各課から進捗や取組状況について説明をするということも以前に実施していたが、今後も必要であれば実施していきたい。

- ・【資料3】を社会教育委員の意見として各課にフィードバックすることが承認された。

4. 社会教育施設の視察（図書館視察）についての報告【資料4】【資料5】【資料6】

〈事務局〉【資料4】を基に図書館の概要の説明を受けた後、コロナ禍において整備された施設をメインに視察を実施した。

〈委員からの報告〉

- ・ひさびさに図書館を利用したが、前と違って明るいイメージでPOP等も綺麗に書かれており、素敵な場所という印象を受けた。取組内容の中で電子図書館や木津川市との連携、郵送事業の説明を受けた。どれも知らなかったもので、電子図書館や郵送事業は来館せずに借りることができ、来館が難しい方にとっては非常に便利なシステムであるので、是非利用してみたいと思った。
- ・全ての本にICタグが付いていることにより、対面なしで貸出や返却、予約本の貸出もでき、非常に機械化が進んでいる印象を受けた。
- ・本の消毒器もあり、自分で消毒をすることで安心して本を借りることができる。このような施設整備の対応が早いことに驚いた。
- ・学校への司書派遣いただいていることで、図書館が充実している印象を受けている。
- ・視聴覚室がYA（ヤングアダルト）ルームとして開放されていて使用者もおられた。
- ・今後も、ぜひ図書館を利用したいと思った。

5. その他

〈委員から〉

- ・NPOに二枚目の名刺というNPOがある。例えば、社会教育委員の名刺を皆さんでデザインして配布することで、【社会教育委員】という言葉が話のネタになったり、PRできたりといった効果がある。今後の社会教育委員の集まりの中で、このようなざっくばらんな話ができるようになればと考える。
- ・社会教育主事という資格があり、奈良県では奈良教育大学と天理大学が社会教育主事を養成している大学である。法改正により、社会教育主事が“社会教育士”という名称になった。社会教育主事の資格を持っている人は、追加で4科目8単位の履修が必要だが、主事養成をしている大学であれば、科目等履修生制度を利用し2科目4単位の履修で資格が取得できる。費用はかかるが、4月から大学のHPにて、オンデマンド受講ができる案内を開始するので、興味のある方々に広報していただければありがたい。

〈事務局から〉

・令和2年から委員委嘱をした第36期社会教育委員が2月18日をもって任期満了となる。平成29年に策定した奈良市社会教育推進計画の改訂をメインに活動をし、令和3年10月に策定ができた。皆様に多大なご協力をいただいたことに対し、深く御礼を申し上げます。

資料

- 【資料1】令和3年度 全国社会教育全国大会（石川大会）参加報告書
- 【資料2】令和3年度 近畿地区社会教育研究大会（大阪大会）参加報告書
- 【資料3】奈良市社会教育推進計画に基づく事業の評価・点検に関する活動報告
- 【資料4】図書館視察
- 【資料5】令和3年度 第2回評価・点検グループ活動会議メモ
- 【資料6】図書館視察（質問・回答）